



2014.2.7  
第153号

### 発行

福島県市町村  
教育委員会  
連絡協議会  
北会津支会  
耶麻沼支会

### 編集

福島県教育庁  
会津教育事務所

### 編集協力

小・中学校長会

## 父親から学ぶ



会津若松市教育委員会  
委員長 大波 敏昭

ある本に「子どもの社会性を育てるのは、父親である。」とありました。お父さん達は厳しい社会の中で働き、一生懸命仕事をしている。だから、社会の常識や良識、良さも難しさも、肌で感じて知っている。そんなお父さんだからこそ、自分の子どもに本当の社会性を教えられる。というものでした。

しかし、現代の日本では父親のほうがより厳しい社会の現実を知っている場合が多いと私は思っております。それは、男性が女性に甘く、女性は男性に厳しいと感じているからです……？ ですからこそ、社会の厳しさを教えらるるのには、お父さんのほうがむいていると思えます。それ故、子どもへの感謝と寛容さを学ぶのです。しかし、近年発生している、悲しい事件の数々を見るにつけ、お父さんはどう関わっているのだろうか、と考えてしまうことが大変わ多くなってきました。ストーリー事件やドメスティックバイオレンス事件等に見られるように、自分のことは棚に上げて、人のせいにするのが発端の事件の多発には、社会性のかけらもありません。これは、家庭教育に大きな要因があるような気がしてなりません。

責任感、感謝の心、常識や良識を教えるお父さんの姿があったのかと、問わずにはいられません。翻って、私はどうかと考えるてみると、やはり、模範的な父親ではなかったと反省が先にたつてしまいます。よく女房に言われるのは、家庭での会話が少なすぎる、ということですね。子どもたちもそれを感じ取って、父親には近づいて来ないのです。昔は父親というものは、絶対的な存在でした。私の父も大変厳しい人で、口で言うより手の方が早かった人です。現代にそんな昔の父親像を追求しても無理なことは承知しておりますが、家庭での父親の存在をもう少し認めてほしいと思っております。これは、奥さんへのお願ひも含まれております。更には、家庭内での夫婦と親子の会話をなるべく増やすべきだと思います。なかなか出来そうではない事かもしれませんが……。そして、家庭や地域での子育てに、もっと参画してみましよう。がんばる姿を見て、子どもたちはお父さんを尊敬し、学んでいくと思えます。お父さん方にもっと教育関係事業に関わっていただけのように取り組んでいかなければならないと、気持ちを新たにしたいところです。

## 各種表彰紹介

敬称省略

### □文部科学大臣表彰

- 地方教育行政功労者
  - 前北塩原村教育委員会委員 藤田 基吉
  - 前西会津町教育委員会委員 伊藤 てる子
- 優秀教員
  - 喜多方市立塩川小学校 教諭 齋藤 園子
  - 会津学鳳高等学校 教諭 稲村忠右エ門
  - 会津農林高等学校 教諭 齋藤 泰靖
  - 会津学鳳中学校 教諭 小川 茂樹
- 学校保健及び学校安全
  - 喜多方市立高郷中学校 学校歯科医 志田 公司
  - 県立会津第二高等学校 学校薬剤師 関 孝一
  - 駒形地区こども見守り隊

### □県教育委員会表彰

- 地方教育行政功労者
- 学校教育功労者
  - 会津坂下町立坂下南小学校 校長 滝沢 玲子
- へき地教育関係功労者
  - 喜多方市立塩川小学校 校長 佐藤 和信
- へき地教育関係功績顕著な団体・施設
  - 三島町立三島小学校

### ○優秀教職員

- 喜多方市立第二小学校 教諭 結城 克徳
- 会津若松市立河東中学校 教諭 渡部 幹雄
- 県学校関係緑化コンクール (学校環境緑化の部)
  - ・教育長賞 会津若松市立川南小学校
  - ・関東森林管理局賞 会津若松市立川南小学校
  - ・(公財)福島県都市公園・緑化協会理事長賞 会津美里町立本郷小学校
  - ・(公財)ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団理事長賞 磐梯町立磐梯第一小学校
- 奨励賞 会津若松市立湊小学校

### □日本学校保健会健康教育推進学校表彰

- 優秀校、特別協賛社賞 会津若松市立大戸小学校

### □県学校保健会表彰

- 学校保健優良学校 会津若松市立大戸小学校
- 学校保健功労者
  - 喜多方市立堂島小学校ほか 学校医 武田 尚壽

喜多方市立第一中学校ほか 学校医 佐原 元

### ○感謝状

前喜多方市立高郷中学校 学校医 三浦 武

### ○県学校歯科保健優良校表彰

- ・優秀賞
  - 会津若松市立河東学園小学校
  - 会津若松市立大戸小学校
  - 喜多方市立第一小学校
  - 喜多方市立第三小学校
  - 喜多方市立駒形小学校
  - 北塩原村立さくら小学校
  - 湯川村立勝常小学校

### □県学校給食会優良団体・功績者表彰

- 優良団体 会津若松市立小金井小学校

### □地球温暖化防止のための福島議定書(学校版)事業表彰

- 最優秀賞 西会津高等学校
- 優秀賞 会津若松市立城西小学校

## 総務社会教育課事業報告

### 1 放課後子どもプラン研修会

- (1) 日時 平成25年10月26日(土)
- (2) 会場 湯川村体育館・ユースピアゆがわ
- (3) 内容 演習・講義・分科会

- 演習 「子どもたちが楽しめるニュースポーツの紹介」  
会津若松スポーツレクリエーション協会 旗野三重子氏  
・ディスコン、忍者ランド、キャッチング・ザ・スティック等  
について説明していただきました。
- 講義 「放課後子どもプランの現状と課題及び今後の展開」  
文部科学省社会教育アドバイザー 伴野博美氏  
・杉並第一小学校の学校支援地域本部長として地域と学校との連携・協働を展開  
している経験からお話いただきました。
- 分科会 「子ども教室の現状と課題・児童クラブの現状と課題」



▶ディスコンをする参加者



▶分科会での話し合い



▶齋藤文良館長



▶北村育美氏

### 2 地域防災力向上支援プログラム

- (1) 日時・会場 平成25年11月 8日(金) 下郷町ふれあいセンター  
平成25年11月15日(金) ルネッサンス中の島
- (2) 内容 事例発表・講義・演習
- (3) 研修の様子

- 事例発表 「被災地の事例に学ぶ」～まさかに備える地域力～  
気仙沼市立松岩公民館長 齋藤文良氏
- 講義 「防災・減災と地域コミュニティ」  
関西大学社会安全学部 准教授 永松伸吾氏
- 演習 「避難所運営ゲームHUG」  
富岡町おだがいさまセンター 北村育美氏  
・参加者が実際に避難所を運営するシミュレーションゲームを実施しました。

## 「域内における学力向上策の成果と課題」

本年度、会津教育事務所では、「確かな学力」の育成を目指して、3つの柱を立てて取り組んできました。各学校の取組状況については以下の通りです。(3.0点中)

- 1 学力向上グランドデザインの改善
- 2 「わかる・できる授業」の設計・実施・評価
- 3 学習環境、生活環境の確立

子どもたちの生き抜く力をささえる「確かな学力」の育成	12月調査	7月調査
1 学力向上グランドデザインの改善	2.45	2.29
2 「わかる・できる授業」の設計・実施・評価	2.41	2.21
3 学習習慣、生活習慣の確立	2.45	2.28

A：よく行っている(3) B：どちらかと言えば行っている(2)  
C：あまり行っていない(1) D：行っていない(0)

学力向上グランドデザインについては、次年度に向けて学校全体で具体的な取組が充実するように、自校の実態をもとに改善をお願いします。

「わかる・できる授業」については、本年度、幼・小・中あわせてのべ150回あまりの学校訪問を通して、先生方と具体的に協議してきました。全国学力・学習状況調査や福島県学力調査の結果をもとに、各学校で授業について分析していると思います。分析結果をもとに、定着確認シートやフォローアップシートを有効に活用し、当該学年で身に付けさせるべき事項をしっかりと定着させてください。

学習習慣、生活習慣を確立するために、今後とも小中の連携とともに地域、PTAでの各種取組と連携を図りながら、家庭学習や家庭生活について見直しを進めていただきたいと思います。

## 「会津における特別支援教育の推進のために」

昨年12月に文部科学省が通常学級に在籍する発達障がいのある児童生徒の調査を行いました。その結果、特別な教育的支援を必要とする児童生徒の割合は「6.5%」(小学校7.7%、中学校4.0%)と推定されました。

また、今回の調査で大きな課題として明らかになったことは、校内委員会で支援が必要と判断されていない児童生徒が約8割、特別な教育的支援が必要な児童生徒の中で、まったく支援を受けていない児童生徒が約4割程度という点です。

一人一人の児童生徒を理解し、支えていくためには、担任一人が頑張るのではなく、全教職員が理解・協力して支援していく校内支援体制を整備していく必要があります。

### ＜特別支援教育の推進のために＞

#### ① ケース会議の実施

学年会などを活用し、対象児童生徒の支援策を話し合う場を設けてください。その中で対象児童生徒の気になる行動を一つ一つ取り上げ、その行動の背景や要因を推察しながら、つまずきの原因を考え、支援策を出し合ってください。

#### ② 「個別の教育支援計画」の作成・活用

ケース会議で話し合った課題や目標・支援策を「個別の教育支援計画」に記入してください。そして、作成した「個別の教育支援計画」を支援のためのツールとして活用してください。学習支援員へ具体的な目標や手立てを示したり、次の学年や学校への引き継ぎに使いながら「個別の教育支援計画」を活用してください。





## 未来を創る仕事への覚悟は

三島町教育委員会教育長 矢澤 源成

窓越しに降る雪に、人生の儚さを投影しながら、宮下温泉「桐の湯」に浸かり考えていた。何を、人間の「覚悟」について。人は人生の節目で、「覚悟」をしながら生きている。私個人の「覚悟」なんてたかが知れているが、しかし組織における公人の視点からの「覚悟」となれば、「覚悟」そのものを自己検証することが大事である。自分に対する謙虚さや、ある程度の「自信」があるか否か。私の「覚悟」が、教育の振興・文化振興等々の各種施策の展開において、地域振興の一助となりえるのか、はなはだ疑問でないのか。自分の「覚悟」が、他者の「サチ」となることができるのか様々な事が脳裏をよぎっていた。

自分の心を覗くために、心の鏡として、読む本がある。文芸評論家の小林秀雄や哲学者の梅原猛、また思想家・詩人でもある吉本隆明等々であり、この人ならどの様に考えるのか覗く癖が学生時代からあった。今回は小林秀雄の「様々

な意匠」である。次の一節を、自分自身に対する「覚悟」の戒めや、希望の方向性として再読している。小林曰く、『「自分の嗜好に従って人を評するのは容易なことだ」と人は言う。然し、尺度に従って人を評する事も等しく苦もない業である。常に生き生きとした嗜好を有し、常に澁刺たる尺度を持つという事だけが容易ではないのである』この言葉を咀嚼し、自分に向かうベクトルと他者に向かうベクトルの衝突する「場」の緊張感にこそ教育があるのだと考えます。先人達が残してくれた三島の「桐の文化」をさらに深化させる事が、世界に通じるのだという自覚をもって、この任にあたりたいと考える。

降る雪に光が差す窓越しに、雪と光がハレーションを起こし希望の閃光を放った瞬間、人の気配でふと我にかえった。入浴して1時間程経過しただろうか。

終着駅のない「教育」という列車に乗った「覚悟」を内に秘めながら。

### 我がまちからの情報発信

## 「旧五十島家住宅」

今からおよそ280年前、江戸時代の中期の建築と推定され、平屋中門造りで当時における当地民家の標準的住宅であったが、昭和53年4月、県重要文化財に指定されると同時に町に寄附され、昭和54年に現在地に復元移転された。

旧五十島家住宅にみられる建築様式は平屋中門造りで、東北地方の日本海側一帯に広がる多雪対応型住宅で、中門に馬屋と便所がありその前面から出入していた。柱の高さは十尺と低く、礎石に直接立てる石場立て、屋根はかや葺きの寄せ棟で中門は本屋よりやや低く、宅内は三間の広間があり二間は板敷きで、うち表側の一間は主として冠婚葬祭に使った座敷、裏側の部屋は主人夫婦の寝室であった。土間はすべてタタキで、そのうち七坪半は居間で、ほぼ中央に炉を設けて火棚と自在カギをつけ、炊事場、食堂、客間を兼ね、その他のタタキ部分を低くして作業場として使っていた。座敷と寝室のほかは仕切りがなく開放的な空間で、柱その他の構造材はすべてに雑木(栗)を使い、天井にもこれを2本つなぎ中引きとして梁を固定していることから、

### 金山町教育委員会

当時の建築様式を目の当たりにできます。

当町には古民家はたくさんありますが、今ではかや葺き屋根にトタンを被せて改造しており、建築当時の面影を残す古民家は他には残っていません。

平成25年4月、旧五十島家住宅に隣接する金山町活性化センター「こぶし館」のリニューアルにあわせ、トイレ休憩施設や情報発信施設、新たな駐車場など、一帯が道の駅「奥会津かねやま」として新たに開設されました。これまで、旧五十島家住宅は常時一般開放はなされませんでした。4月下旬から11月中旬までは常時一般開放していますので、奥会津へお越しの際はお気軽にお立ち寄りください。



# 作品と指導

工作

『メリークリスマスタワー』  
会津美里町立宮川小学校  
5年 皆藤 風太



太さの違う針金を切ったり、曲げたり、ねじったりして組み合わせたタワーをつくりました。自分のイメージに合う材料を使うことで『世界に1つだけのタワー』ができあがりました。

指導者 小林 亜希

絵画

『モチモチの木が光ったよ』  
喜多方市立第一小学校  
3年 齋藤 春都



絵の具を掌全体で伸ばして彩色した背景に、習字紙に描いたモチモチの木と豆太を貼りました。光の様子や豆太の表情に温かさが出ています。

指導者 佐久間知意子

習字

『飛翔』  
猪苗代町立猪苗代中学校  
3年 上妻 悠人



3年間の書写の授業で学習したことを生かし、自分で言葉と書体を選んで書いた作品です。希望、目標、決意など、将来に向けての思いが表現されていて、3年生らしい作品に仕上がりました。  
指導者 穴澤 房江

本校は、教科教室型であり、全天候のトラックと多目的ホール機能を持つランチルーム等を備え、また、町の図書館が併設するなど、とても恵まれた教育環境です。  
新任教頭として赴任し、九ヶ月が過ぎました。当初十九年ぶりの中学校勤務で校種の違いに不安がありましたが、とても素直な子供たち、協力的な保護者の方温かい地域の方に囲まれた中で、教育活動で、その気持ちが一掃されました。  
今後、この教育環境の中で、町の教育目標である「こころ豊かな人間の育成」を目指し、子供のことを第一に考えた学校づくり、そして、子供の可能性を信じ、引き出し・伸ばすことができる学校づくりを組織として行えるように、校長先生の指導の下、取り組んでいきます。



西会津中学校 教頭 博多 弘 泰

恵まれた教育環境の中で

## 私の抱負

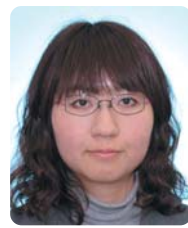
本校がある広州は中国第三の経済都市で、香港やマカオに隣接しています。本校は約四百二十名（小中一貫校）が在籍する大規模校です。中国に来て肌で感じたことは、人々は誰に対しても親切であり、向上心がとても高い（エネルギー）ということ。国際教育の一環として、現地校（東風東路小学校）との交流を中国語で行いました。会津の伝統工芸品である「起き上がり小法師」の手作り体験を企画しました。その由来や会津地方の特色を知ること、日本の伝統文化のよさを両校児童に実感させることができました。  
このように中国と日本にはそれぞれのよさが溢れています。それを今、中国で生きる日本の子どもたちに伝え、今しか実践できない本物の国際教育を推進していきたいと思っています。



広州日本人学校 教諭 目黒 洋 光

本物の国際教育の推進

合唱部での活動では、大会以外にも演奏会や慰問活動などの機会に恵まれ、その度に生徒の成長を垣間見ることができ、「自分も頑張らねば」と刺激を受けています。  
まだまだ未熟者の私です。これからも『日々是精進』の気持ち忘れず、少しずつ生徒とともに成長していきたいと思っています。



福島県立葵高校 教諭 横山 裕 理

『日々是精進』